

## 人物映像解析による犯罪捜査支援システム

実施機関：大阪大学（研究代表者：八木 康史）

実施期間：平成 22～26 年度

### プロジェクトの概要

犯罪捜査における様々な場面に対応した人物映像解析による捜査支援システムの実現を目指す。具体的には、以下のシステム実現を目指す。

- ①マルチモーダル歩行特徴による個人認証技術
- ②カメラ渡りを含む人物行動追跡技術
- ③防犯カメラキャリブレーション装置
- ④経年変化顔合成技術
- ⑤超解像による動画像の鮮明化

#### (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	プロジェクト全体としての成果	研究計画・実施体制	事業化に向けた取組の継続性・発展性
A	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

#### (2) 評価コメント

人物映像解析の目標が多岐にわたるものの、全体として手堅くプロジェクトを進め、ミッションステートメントは所期の目標どおりに達成している。歩容認証システム、防犯カメラキャリブレーション装置などについては、既に活用されているものの、全体システムとして事業化に向けた一層の努力を期待する。

- ・**目標達成度**：人物映像解析による捜査支援システムとしての目標は達成している。特に歩容鑑定手法は GUI 装備のシステムとして実装され世界に先駆けて発表し、各技術開発要素は学術的に高く評価されている。
- ・**プロジェクト全体としての成果**：全体として、予定されていた5つのシステムが構築され、いずれも市販のPC上で動作できる等実用面でも優れた成果をおさめている。歩容認証技術は、新たな個人識別法として警察白書で紹介されるなど、その有効性が期待されている。
- ・**研究計画・実施体制**：研究実施機関が6機関と多い中、責任機関が中心となって、着実に研究開発が進められ、各機関がそれぞれ十分な役割を果たし、再審査時のコメントにも適切に対応した。
- ・**事業化に向けた取組の継続性・発展性**：開発された手法は基礎技術として学術的に高いレベルである。これら技術の一部は、既に、鑑定などに活用されつつあるものの、全体としての成果についても更なる活用に向けての発展性が期待される。